

## < 第 5 回研究会 ~ 日本行動計量学会特別セッション ~ >

\*\*\*\*\*

< セッション 1 > ~ 1 日目 ( 14 日 ) 午後 1:10-3:40

セッション名 : 「 好みのマーケティング 」

オーガナイザー : 朝野熙彦 真柳麻誉美 指定討論者 : 岡太彬訓

\*\*\*\*\*

< 1-1 >

名前 : 丸山 玄

所属 : 大成建設株式会社 建築総本部 プロポーザル部

題名 : 水族館来訪動機を探る評価構造

要旨 :

開館年が比較的古い水族館では入館者の減少に悩みを抱え、  
リピーター確保のため地域の人々に愛される水族館づくりが求められる。  
本研究では、魅力ある水族館づくりの企画作成の第一ステップとして、  
定性的なニーズ把握を目的とする調査結果を報告する。  
評価グリッド法を用いたインタビュー調査を水族館関係者及び来訪者へ、  
計 33 名に実施した。結果として来館者が求める水族館の役割として  
4 分類軸を設定した。評価構造から水族館の来訪要因や阻害要因を  
分析することで、費用対効果の面から科学的な裏づけをふまえた  
新生水族館に向けての企画案づくりの基礎資料として活用できると考える。

-----  
< 1-2 >

名前 : 武藤浩

所属 : 竹中工務店技術研究所 先端研究開発部

題名 : 建築物の壁面緑化に関する研究

一般人の心理評価構造に基づく計画上の課題の抽出

要旨 :

壁面緑化の心理的価値と関連する物的特性を構造的に把握するために、一般の人を対象に、評価グリッド法によるヒアリング調査を実施し、計画上のポイントとしてまとめた。1) 建物用途やデザインの影響が大きく、歴史的建造物などには調和しやすいが、近代的な建物にはデザイン的な配慮がとくに要求される。2) 初期時点から適度のボリュームが必要であり、植物が生き生きとした状態を維持することが不可欠である。3) 植物の形状や間隔、管理も重要であるが、度を過ぎると人工的な印象になる。相反する価値観である人間の関与と自然さを両立することが重要な視点と思われる。

-----  
< 1-3 >

名前：小島隆矢

所属：独立行政法人 建築研究所

連名者（複数可）：武藤浩

連名者所属（複数可）：竹中工務店 技術研究所

題名：「建物外観の汚れ感に関する研究-個別尺度法と共通尺度法を併用した調査・分析事例-」

要旨：

建物外壁は時間の経過とともに汚れていくが、汚れていてもそれほど汚いと感じられない建物も存在する。そこで本研究では、建物全体の外観から受ける不快な印象としての汚さを「汚れ感」と定義し、建物の物理的な汚れの程度と区別した上で、汚れ感を決定する要因、および汚れ感が建物外観の全体的な印象に対して及ぼす影響について分析・考察を行った。具体的には、オフィスビル67棟について、「汚れの程度」については、汚れている部分の拡大写真を提示し判定させる方法、「汚れ感」および全体の印象については建物全景写真を提示し評価させる方法をとった。特に、全体の印象は、8項目の共通尺度および各評定者ごとに各自の語彙の中から選んだ10語程度の個別尺度を用いて評価を行っている。

-----  
< 1-4 >

名前：真柳 麻誉美

所属：女子栄養大学 食品学第一研究室

題名：チーズセミナーにおける試食感想文の解析

要旨：

2001年6月に乳業メーカーとの提携で授業の一環として実施されたチーズセミナーで収集された女子大生91名の8種のチーズの試食感想文を、分かち書き処理後カテゴリ化し、チーズの種類別集計を行った。

このデータに対し、対応分析により解析を行った結果、フレッシュタイプのチーズの受容度が高く、青かびタイプのチーズの評価が好ましくないことがわかった。

その他、試食した8種のチーズの特徴が整理され、評価の際の重視項目が明確化した。

-----  
< 1-5 >

名前：林 俊克

所属：(株)資生堂CS開発センター情報開発室

連名者（複数可）：真柳麻誉美\*\* 道官克一郎\*\*\* 平野広隆\*\*\*\*

連名者所属（複数可）：\*\*女子栄養大学 食品学第一研究室

\*\*\*（有）データアート代表 \*\*\*\*(株)アーキテクト

題名：女子大生の魅力的牛乳像の解明

要旨：

2001年5月に女子栄養大学1年生181名を対象に、「定義法」と「文章完成法」のアンケート調査を集合調査法により実施。回収票から無効票を除いた171票を、ポートフォリオ、デマテル等を用いて分析する一連の解析ストーリーにて女子大生の持つ魅力的牛乳像の解明を試み、さらに手法の有用性を検証した。その結果、女子大生にとって魅力的な事象、さほど魅力的に感じない事象、魅力の連鎖、因果構造が判明した他、新たなニーズとなるキーワードが得られた。これより、インタビュー手法に比べ、調査者、被験者ともに労力少なく、効率よく商品開発上の有益な情報抽出が可能であることが確認された。

-----  
< 1-6 >

名前：真柳麻誉美

所属：女子栄養大学 食品学第一研究室

連名者（複数可）：林 俊克\*\* 平野広隆\*\*\*

連名者所属（複数可）：\*\*(株)資生堂CS開発センター情報開発室

\*\*\*(株)アーキテクト

題名：非定型自由記述法と定型自由記述法の比較

要旨：

非定型自由記述、「定義法」「文章完成法」「連想法」による定型自由記述、事前に定性調査を行って項目を吟味した7段階評点尺度による3.SD法、の3種の形式で調査票を作成し、女子栄養大学1年生544名を対象に3種を無作為割付して調査を行った。

主に、非定型自由記述と定型自由記述について比較検討を行ったところ、定型自由記述データは効率良く情報の収集が出来、データ処理の負荷が低いという長所があったが、関与が低い場合や不慣れな場合には、被験者の回答負荷がやや高いことが判明した。

その他、各手法の特徴をまとめた。

-----

\*\*\*\*\*

<セッション2> ~2日目(15日)午前9:30-12:00

セッション名:「好みの計量」

オーガナイザー:鈴木督久 真柳麻誉美 指定討論者:狩野裕

\*\*\*\*\*

<2-1>

名前:若林直子

所属:特定非営利活動法人 生活環境 NPO あくと

連名者(複数可):小島 隆矢

連名者所属(複数可):独立行政法人 建築研究所

題名:「住民意識調査による防災意識の構造に関する研究」

要旨:

本研究では、防災先進地域といわれる都市居住者を対象とした一連のアンケート調査を実施し、住民の「防災意識」について様々な観点から検討を加えた。

本報では、特に、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大地震前後の防災意識の変化、グラフィカルモデリングを用いた因果関係の分析結果などについて報告する。

-----  
<2-2>

名前:廣野元久

所属:(株)リコーCS・品質本部計画室品質技術G

連名者所属(複数可):女子栄養大学 食品学第一研究室

題名:牛乳の買いたさの構造を探る3

~グラフィカルモデリングを利用した因子間構造の探索~

要旨:

99年度に実施した構造方程式モデリングによる牛乳の魅力(買いたさ)構造を基に、検証的因子分析から因子の因果分析に進む際に、探索的因果分析のツールであるGMの併用を提案し、具体的に事例への適用を通して、GM利用の有用性を検討した。その結果、因子間の一般的な知見が乏しくても、無向独立グラフを統計的な基本ルールに従い探索することで、非常に短時間で有効な因果モデルの推論ができることが確認できた。また、知見をふまえた対話的モデリングも可能であり、連鎖独立グラフによる柔軟な因子間構造の探索の可能性が確認できた。

-----  
<2-3>

名前:真柳 麻誉美

所属：女子栄養大学 食品学第一研究室

題名：「牛乳の魅力に対する言葉の効果～直交実験計画による無作為割付調査～

要旨：

牛乳という商品では、消費者の市販商品での評価実感と食品科学的な実験調査結果の隔たりが問題となっている。本報では、これを食品の2次成分と見なせる情報（言葉）効果によるものと考え、表示要因である「乳脂肪分(MF%)」「無脂乳固形分(SNF%)」「殺菌方法」が、言葉のみでどのような影響をもたらすかを定量的に把握することを目的とした。

官能評価は2000年の5月に実施し、対象者は女子栄養大学の女子学生288名。各要因2水準でL8直交計画により8通りの提示パターンを作り、対象者全体をこの8パターンに無作為割付した(各36名)。

解析には「乳の魅力モデル(真柳,2000)」を元に、構造法的式モデリングを使用し、因子への効果を記述した。その結果、「乳脂肪分」「殺菌法」に大きな効果が見られ、「無脂乳固形分」にはほとんど効果が見られなかった。

-----  
<2-4>

名前：仁科 健

所属：名古屋工業大学 工学部生産システム工学科

連名者（複数可）：丹羽 真二\*\*南谷 彰紀\*\*\*

連名者所属（複数可）：\*\*日本電気(株) \*\*\*東邦ガス情報システム(株)

題名：SD法における感性評価能力の計量

要旨：

感性を"刺激をイメージに変換する能力"と定義する。

"能力"と定義する背景には個人差の存在を前提とする考えがある。

SD法によって評価構造の個人差を解析するとき、混在する評価構造を別途抽出すること、および被験者の評価能力差を抽出することが問題となる。

質の悪いデータから、できるだけ明確な評価構造を抽出したい、

加えて、その明確な構造をもった被験者を抽出したいのである。

本報告では、SD法による評価構造に階層構造を仮定し、階層内での空間の明確さ、階層間での変換の多様性に基づく評価能力の計量化指標について提案する。

-----  
<2-5>

名前：水野 誠

所属：株式会社博報堂 研究開発局

題名：「潜在クラス・ロジット分析とGAによる選択ルール発見」

要旨：

消費者の選択行動に関する心理学的研究では，消費者がしばしば補償型と非補償型のルールを混合して用いることが示されている。本研究は，スキャナーパネルデータのような実際の選択データから，遺伝的アルゴリズムを用いて消費者の複合的な選択ルールを探索的に識別し，さらに（補償型ルールに対して）多項ロジットモデルによって属性ウェイトを推定する方法論を提案する。ルールの異質性に対応する潜在クラスが推定されるため，ルールとウェイトの双方を考慮したセグメンテーションが可能になる。3 ヶ年に及ぶ購買データへの適用事例を通じ，その妥当性を検討する。

-----  
<2-6>

名前：松田紀之

所属：筑波大学 社会工学系

連名者（複数可）：真柳麻誉美\* 柴崎\*\*

連名者所属（複数可）：\*女子栄養大学 食品学第一研究室 \*\*筑波大学 社会工学系

題名：Interactive Two-Stage Method for Probing Consumers' Preferences over Popular Food Items: A Case Study of Ice-Cream Choice by a Modified AHP.

要旨：

Choice of popular ice-creams seems to be an enjoyable, uncomplicated process to most consumers. However, it poses an interesting question to researchers as to why and how a certain brand has an overwhelming appeal to people among competitors. The purpose of the present work is to test the plausibility of an interactive two-stage method which incorporates both intuitive and interpretive evaluations by subjects.

-----